

熊本地震に関する緊急共同記者会見に当たって

熊本地震で被害にあわれた多くの皆様に、心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。まだ群発地震が継続していますが、安全を確保され、なるべく早い時期に平常の生活の戻ることができることを祈念しています。

今回の地震は、複雑に構成された活断層のズレが原因で引き起こされたと指摘され、その伝播の過程で群発地震というべき現象が起こっています。我々が主として利用する地表においても、強い揺れや地盤のズレ生じて、構造物・建築物に大きな被害が出ました。

このような現象を踏まえると、熊本地震の解明、今後の見通し、更に国土全域に存在する活断層のズレを起源とする地震の可能性の解明、そして防災・減災対策を科学的知見に基づいて進めるためには、多くの関連する分野の研究者の研究蓄積と英知を結集することが不可欠です。

本年1月に発足した、防災学術連携体は、まさにこうした役割を担う、およそ50学協会からなる地震関連諸学術分野の連携組織です。今回の熊本地震において、それぞれに分野の知見を共有し、協力することで、被災した皆さん、心配されている多くの国民の疑問に答え、救急・救命、救助への助言、そして復興、防災・減災に向けた展望を示すことができるように役割を果たすことができればと思います。日本学術会議も、防災学術連携体とともに、こうした役割を担いたいと思います。

2016年4月18日（月）
日本学術会議会長 大西隆